第２学年　生活科（災害安全） 場所　２年２組教室

外手の町ぼうえいたい！

指導者　松本　優喜

**１　単元の目標**

　・自然災害に対する適切な行動や危険を回避する行動ができる。

　・地域に愛着をもち、集団や社会の一員として安全で適切な行動ができる。

**２　新学習指導要領との関連**

　　資質・能力の三つの柱としての目標

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能の基礎 | 思考力・判断力・表現力等の基礎 | 学びに向かう力、人間性等 |
| ・家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる。  ・自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる。  ・身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。 | ・家庭における家族のことや自分のできることなどについて考える。  ・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える。  ・公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりする。 | ・自分の役割を積極的に果たそうとする。  ・地域に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。  ・公共物や公共施設を大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。 |

**３　単元について**

児童はこれまで、様々な機会に災害安全について学習してきた。毎月行われる避難訓練では「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を瞬時に見付け、身を守る姿勢をとることを徹底して指導してきた。また、生活科や学級活動の時間には、校内で地震が起きたときの身の守り方について具体的な状況を想定し、危険を予測し危険を回避する行動を考えてきた。

しかし、地震が起こりうる可能性は、児童が校内で過ごしているときよりも、校外で過ごしているときの方が圧倒的に多い。そこで、本単元では、児童が校外にいるときに地震が起きたことを想定し、様々な場所での危険を予測し、よりリスクの低い危険回避の行動をとることができる力を身に付けさせたい。

**４　安全教育の視点に迫るための手だて**

・危険な状況をイラストや写真で提示し、児童が具体的な危険回避の方法を考えられるようにする。

　・時系列で状況を提示することで、次に起こりうる危険を予測し、回避する方法を考えられるようにする。

　・家庭との連携を図ることで、より日常的に危険を予測し、自分ができることを考えられるようにする。

**５　指導計画（８時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ○主な学習活動 | ◎指導上の留意点　■評価  ☆安全教育の視点に立った留意点 |
| １ | ○家庭の中で身の回りには、どんな危険があるか考える。 | ◎イラストを使い日常生活を想起させる。  ■安全に気を付けた生活について考えている。 |
| ２ | ○家にいるときに緊急地震速報がなったらどうするか考える。 | ☆緊急地震速報の意味をおさえる。  ■家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。 |
| ３ | ○公園や児童館の中にいるときに地震が起こったらどうするか考える。 | ☆写真を使い日常生活を想起させる。  ■公共施設を大切にし、安全に気を付けて正しく利用する方法を考えている。 |
| ４ | ○外にいるときや乗り物に乗っているときに地震が起こったらどうするか考える。 | ☆大人の指示に従って行動することの大切さを押さえる。  ■公共物を大切にし、安全に気を付けて正しく利用する方法を考えている。 |
| ５ | ○川のそばにいるときに地震が起こったらどうするか考える。 | ◎写真を用いて地域の特徴を捉える。  ■自分たちが住んでいる地域の特徴を捉え、安全な行動について考えている。 |
| ６ | ○地震への備えを考える。 | ☆家族の一員であることを意識させる。  ■家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。 |
| ７  （本時） | ○非常時持ち出し袋の中身を考える。 | ◎具体物を用いて、イメージできるようにする。  ■家族の一員として、果たすべき役割があることを理解している。 |
| ８ | ○避難所での過ごし方を考える。 | ◎体育館の写真を見ながら、具体的にイメージできるようにする。  ☆地域の一員であることを意識させる。  ■みんなで使う物やそれらを支えている人々がいることを理解している。 |

**６　本時の展開 （７／８）**

**（１）ねらい**

非常時の持ち出し袋の中身を考えることができる。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動  ・予想される児童の反応 | ◎教科の留意点　■評価（評価方法）  ☆安全教育の視点に立った留意点 |
| ○地震が起きて避難することを想定し、非常時持ち出し袋に入れたい物を選び、発表する。  家族の一員として、じしん後を生きぬくために必要な物を考えよう  ○自分が選んだ物について、なぜ、それらの物が必要なのか考える。  ・食料や水→食べ物や水がないと生きられない。  ・着替えなど→寒いときにはたくさん着る。  ・ゲーム→遊びたいから。あると楽しいから。  ・学校の道具→学校が始まったら、無いと困るから。  ・携帯電話・ラジオ→情報を集めるため。  ・お金→買い物をするかもしれないから。  　・粉ミルクやおむつ→妹や弟が使うから。  ○実際に荷物を持って逃げられるか確認する。  　・自分だけでは全部を持っていくことができない。  　　→家族で分担して運ぶ。  　・リュックと手提げに入れれば、自分でも運べる。  　・リュックを２つ使って運ぼう。  ○本当に必要な物を考え、発表する。  　・家族が命を守るために必要な物を持っていく。  　・持っていると安心する物を選ぶ。 | ◎家族の一員として必要な物を考えさせる。  ☆避難時の季節は冬、避難場所は学校の体育館という想定だと伝え、必要な物を考えさせる。  ◎実物や写真を用意して、具体的にイメージしやすいようにする。  ◎根拠をもって必要な物を選ぶことができるようにする。  ☆季節、雨天時や夜間の気温、実際に配給される食糧、避難所に行くまでの危険、避難所の様子を写真や映像を使って具体的に提示できるようにする。  ■地震後に起こる危険や困難を予測し、必要な物を選んでいる。【思・判・表】（発言、ワークシート）  ☆救援物資が届くまでの時間を伝える。  ☆代用できる物、安全に持ち運べる量について気付かせる。  ■非常時持ち出し袋の中身を、自分なりの理由をもって考えている。【思・判・表】（発言・ワークシート）  ☆家族構成によって、必要な物が違うことを伝える。 |